

	シンガポール海外イマージョン研修
1 報告者	緑川あつ子副校長、山内裕介教諭
2 日時	8月1日(月)7:00~8月6日(土)6:30
3 場所	シンガポール
4 参加者	1年生 8名
5 講師等	JETRO シンガポールセンター職員 三崎恵水産職員 まぐろ問屋三浦三崎港職員 東京海上職員 JTB シンガポール支社職員 アルプス物流職員 富士通職員 WABIOS 職員 第一生命職員
6 目的	○複合多民族国家シンガポールに赴き、これからの社会が求めるグローバル人材としての必要な文化的多様性を理解する。 ○フィールドワークを通じて、一体化するマインドを育み、各自の課題研究の質を向上させる。 ○海外でのキャリアイメージを拡大させるとともに、課題に対するプレゼンテーションを行うことにより論理的思考力・コミュニケーション力・幅広い教養を育て、次世代ビジネスリーダーとしての素養を身につけさせる。 ○帰国後、成果を同学年の生徒や先輩に発表することで学校全体の課題研究の質を向上させる。
7 活動の概要	生徒はそれぞれの興味関心に基づいて、次のような自分のテーマをもって参加している。「動物の保護」「建築・デザイン」「食文化」「国際都市と空港の役割」「住宅事情」「ロボット開発」「海外で働くということ」。これらのテーマについて企業訪問や生徒自身が計画した自主研修によってフィールドワークを行い、その成果を発表した。
8 内容	事前学習 ○『物語シンガポールの歴史』(中公新書)、『シンガポール謎解き散歩』(中経の文庫)を読んで、シンガポールの歴史や名所等について学習。 ○インターネット等を活用し、自主研修の計画立案。 ○東京海上シンガポールでの英語によるディスカッションのため、英語科教員(西村教諭)から質問事項等についての指導。 ○三崎恵水産 訪問(7月22日) 石橋匡光氏からの講義・質疑応答とまぐろの冷凍庫や加工工場を見学。

8月1日（第1日目）

【市内自主研修】

生徒のテーマに基づいて計画した場所を訪問

- ・ホーカーセンター 体験
- ・旧ヒルストリート警察署 見学



8月2日（第2日目）

○JETRO 訪問

勅使河原淳一氏から、シンガポールの経済・社会の概況について講義と質疑応答。
鈴木仁史氏、カスマ ヒッゼル氏から、東南アジア諸国に対する神奈川県のパブリシティについて、講義と質疑応答。

○JTB シンガポール支店 訪問

高須賀務氏からシンガポールの観光について講義と質疑応答。

○田中昭彦氏（DLI Asia Pacific Pte.Ltd.）とのディナーミーティング
海外で働くということについて、個人の経験を踏まえながらお話を頂いた。

8月3日（第3日目）

○早稲田バイオ研究所 訪問

椿雅行氏、宗慶太郎氏から、シンガポールでの研究について講義と質疑応答。

○アルプス物流 訪問

日下洋氏から物流という観点から見たシンガポールと日本の状況について講義。
須藤竹志氏から会社概要と機能について講義。

シンガポール人スタッフから英語を学ぶことについて英語による講義。

志賀氏から海外で働くということについて講義、倉庫の見学。質疑応答。

○富士通データセンター 訪問

データセンターの機能について講義、データセンター見学。

富士通の海外事業について講義と質疑応答。

【市内自主研修】

- ・NUS（シンガポール国立大学） 訪問
NUSの見学と学生との交流。

8月4日（第4日目）

○東京海上シンガポール 訪問

松浦正治氏、三浦洋平氏からシンガポールでの
保険・金融に関わる事業について講義。

シンガポール人スタッフの李美麗（Lee Bee Li）氏と英語でのディスカッション。



○三浦三崎港シンガポール支店 訪問

渡邊将基氏からシンガポールでの出店や経営について講義と質疑応答。



8月5日（第5日目）

【市内自主研修】

- ・シンガポール動物園

動物保護と観光の観点から動物園を見学。

- ・リトルインディア（インドカレー体験・ムスタファセンター見学）

インドカレーを手で食べる体験や現地のディスカウントスーパーマーケットの見学を通して、異文化交流や現地での生活について理解を深める。

- ・ガーデンズバイザベイ

観光の観点から見学。

- ・チャンギ国際空港

東南アジア有数のハブ空港の施設を見学。



9 成果

事後に行った生徒の振り返りは次のようなものである。

「私は多文化の中の建築や暮らし、美術をテーマにシンガポールイマージョン研修に参加しました。実際に現地に行ったことで、インターネットや本では知ることのできなかった匂いや現地に住む人たちの暮らしぶりを肌で感じることができました。また、建物の壮大なスケールや街並みなどを実際に見たことで、さらにシンガポールの魅力を知ることができました。」

「今回の研修に私は、特定の文化を持つ人に特化し使いやすいロボットを作ることをテーマとして参加した。その中で、外国の文化、ライフスタイルは実際に行ってみるとよく分かるということを経験した。確かに、私も雑貨屋やスーパーマーケットで売っている商品が、案外日本のそれとそこまで大きくは変わらない。つまり、国が違っても変わらないニーズもあることなどの発見があった。また、企業訪問でうかがった自分の持っているノウハウを活かしてサービスを開発するという考え方は、自分もロボット分野でやってみたいと思い、強く印象に残った。このように、私はシンガポールでの研修を通して、たくさんの新たな発見ができた。」

「今回の研修は自分にとって、とても有意義な研修だった。印象に残っていることは、NUSの生徒とコミュニケーションを取ったこと、ドリアンや現地ローカルフードなど様々なことにTRYしたことである。海外に進出している企業のお話を聞くのはとてもおもしろく参考になった。この研修に行ってから、将来海外で働いてみたいと思うようになった。」

「私は『文化の異なる人たちと働くためには』をテーマとしてこの研修に臨みました。様々な企業に訪問させていただきましたが、どの企業も色んな国の人が仲良く働いていたのが心に残っています。自分が社会に出るようになったら、日本のアイデンティティーを大切に沢山の文化と触れ合っていきたいと思いました。」

「私が今回の研修で取り組んだテーマは『多民族・多文化国家における食品』でした。それは、4年後に行われるオリンピック東京大会で、ほぼ単民族国家である日本が多くの人々を受け入れる方法を知りたかったからです。シンガポールで発見したその答えはまさにホーカーセンターでした。ホーカーセンターのメリットは、何と言っても手頃な価格でいろいろな国の料理が食べられることです。そして、驚いたのは衛生局の厳しいチェックに基づき、A・B・C・Dの判定がされていることです。このようなことから分かったシンガポールの魅力は、経済成長が著しく、外国企業が進出しやすい国である上に、プラスαとして、世界各地の料理とローカルフードが楽しめるということです。」

「私がシンガポール研修で一番印象に残ったことは、自分で実際に行かないと分からないことがたくさんあるということです。私のテーマは『人と動物の共生』についてだったので、訪問した企業の方々にペットについての質問をしました。シンガポールに行くまでは、経済の発展が著しい国だから、血統書付きの犬や猫が飼われていたりするのではと想像していましたが、実際にはHDBという公団住宅に住

んでいるため、ルールが厳しいこと、共働きの夫婦が多く、世話をできる人がいないこと、犬などを連れて遊びに行ける場所が少ないことなどから、犬や猫より鳥やハムスターのような飼いやすく小さい動物がペットとして人気であることが分かりました。自分の研究テーマ以外でも、多文化社会での言語や文化、ルールの違いなどたくさんの発見がありました。今後は、他者からの情報や先入観に頼らず、自分の目で世界を見て学び、将来に役立てたいと思いました。」

このように、今回の研修を通して、生徒たちは自身のテーマに対する認識を変容させるとともに、インターネットや本などを通して得た知識だけでなく、現地に赴き、人々と触れ合ったり、実際に自分で体験したりすることの重要性を体験的に学ぶことができた。

事前学習において、シンガポールでビジネスをしている人に話を聞いたり、いくつかの書籍を読んだりした上で、個人の興味関心に応じたテーマを明確にし、研修を行ったことは非常に効果的だった。

研修の前半には、いくつかの企業を訪問し、それぞれの方々からシンガポールの現況、そこで行うビジネスについてお話を頂いた。同じシンガポールでも、研究、観光、物流、食品等それぞれの観点から見える姿には、それぞれの特徴がある。同じ事象について違う見解があったり、全く違うと思っていた分野の話が思わぬところで繋がったりということを経験することで、生徒たちは多様な観点から物事を捉えることの重要性を実感し、自身のものの見方や考え方を広げることができた。

また、個人のテーマが明確であるために、企業訪問の際にも、生徒それぞれが視点をもって参加することができた。お話を聞く際に生徒たちは自分の興味関心に沿って主体的に参加し、質疑応答の際にそれぞれの視点から感じたことや疑問点を活発に発言し、相手の企業の方からは驚きとともに好意的な反応を得ることができた。

研修の後半に自主研修として実施したフィールドワークを通して、生徒たちはそれぞれのテーマについての考えや課題を明確にし、事後の発表へと繋げることができた。